

南丹市母子寡婦福祉会（岸本壽枝会長）の主催による南丹市母子寡婦親子の集いが、市日吉町生涯学習センターで行われました。南部自立支援センターの水上恭子さんによる「自立に向かって新しいスタート」と題した講演が行われ、就労や親子関係などについて「忙しくとも常に子どもに寄り添ってほしい。また周囲とのコミュニケーションをとり、助け合える環境を築くことが大切」と話されました。



▲講演でコミュニケーションの大切さを話される水上さん

「周りと助け合える環境を築き  
自立に向かって新しいスタート」

(2 / 10 南丹市母子寡婦親子の集い)

「地域活性化に寄与  
府スポーツ賞受賞」

(平成十九年京都府スポーツ賞)



▲京都府スポーツ賞を受賞された名古さん

平成19年京都府スポーツ賞(功労賞)を名古友弘さん(美山町河内谷)が受賞されました。名古さんは旧美山町では美山町体育協会副会長・会長を歴任され、「美山町インディアカ協会」の設立に貢献されるなど、地域のスポーツ振興に寄与されました。合併後は市域を一体化する新組織の創設に指導力を発揮され、市体育協会設立後は副会長に就任されました。現在は、同協会理事として、地域のスポーツイベントの企画・運営など精力的に行っておられます。

みんなのひろば  
まちの話題を  
紹介します



身近な話題を広報係(0771)68-0019へお寄せください。

「さあ、さがそうよ『青い鳥』を」

(2 / 24 市民参加型ミュージカル「丹波版青い鳥」初公演)

市民ミュージカルをつくる会「J丹musica(タンタムジカ:西田ひとみ代表)」の初公演が市日吉町生涯学習センターで行われ、昼の部、夜の部を合わせ約470人の観客を魅了しました。モーリス・メーテルリンク原作の「青い鳥」をベースに、南丹地域ならではの演出を取り入れて創り上げられた作品には、秋の収穫を祝う「亥の子の牡丹餅」なども歌われました。

平成18年7月に、緑豊かな南丹地域に暮らし、子どもたちが心豊かに育ってほしいと願う母親たちがミュージカルを企画され、いろいろな方たちの協力で創り上げられた舞台は、出演者やスタッフ総勢130人の思いが詰まったファンタジーの世界。「一人ひとりが目に見えない大切な何か『青い鳥』を見つけてほしい。そしてそのような豊かな心を、未来を担う子どもたちへ伝えることができれば」と熱演されました。



▲5歳から70歳代の幅広い市民出演者が一丸となった舞台

お 知 ら せ

広報なんたんは、平成20年度から、隔月の第2金曜日発行となります。次回の発行は5月9日です。